キラリ！輝く人たち

「女性ならではの視点で」

野村知里さん（22歳・古河消防署勤務）

古河市・下妻市・坂東市・常総市の一部・八千代町・境町・五霞町で構成する茨城西南地方広域市町村圏事務組合。平成28年4月、古河消防署で初めての女性救急救命士が入署しました。女性ならではの視点や経験を生かし、救急救命士として日々奮闘する野村さんにお話を伺いました。

看護師志望から救急救命士へ

小学生の頃からの将来の夢は看護師になること。しかし、高校卒業後の進路を決める際に、救急救命士の仕事を知りました。「体を動かすことは好きだったし、消防士はとても名誉のある職業なので、救命も消防もできる救急救命士になろうと決めました」と、専門学校に進学した野村さん。

1クラス40人中、女子は4人～8人。「女性ならではの視点で救命ができれば」という思いで2年間学びました。卒業後は看護助手として1年働き、平成28年4月に茨城西南地方広域市町村圏事務組合に入署、現在は古河消防署に配属されています。

仲間とともに人命を守る

1日24時間勤務で、夕食や朝食は調理室でみんなで作って食べる。行動を共にする時間が長い分、隊員同士の絆は深いようです。

野村さんは、火災や救急搬送時の出動のほか、救命講習や避難訓練の指導などの業務にあたっています。「避難訓練の指導で小学校に行くと、みんな友達になります」と楽しそうに話してくれました。

ほのぼのとするエピソードの一方で、消防士としても活躍しています。今年1月に行われた「第1回警防技術競技会」では、出場メンバーに選抜され、3位に入賞しました。この競技会は、防火衣を着装し空気呼吸器を背負いながら、はしごやホースを持って要救助者を救出する際の技術やタイムを競うものです。非番の日も夜間も早朝も練習を重ね、十数チームのうち第3位を勝ち取りました。

救急救命士として早く一人前に

救急救命士として出場するには一定期間の実務経験が必要で、現在は先輩が同乗しています。「知識や技術をさらに深め、早く一人前になりたい」と意気込みを語る野村さん。日常業務に加え、後輩の指導などたくさんの仕事がある中、常に向上心をもって勉強し続けています。

「研修中、婦人科疾患での急患の搬送をした際に『来てくれたのが女性でよかった』と言ってもらえた。女性だからこそできることがある」とやりがいを話してくれました。

大好きな仕事と良好な職場環境なので、結婚や出産後も働き続けたいという野村さん。将来、初の女性消防署長になるかもしれませんね。今後の活躍を応援しています。